



2022年12月9日

「j.union フォーラム 2022」

開催レポートを大公開！



つながりを通じて
組合から明るい **ミ** **ラ** **イ**
を切り拓く

つどい・つながり つくろうミライ

〇〇 つながりを通じて組合から 明るいミライを切り拓く 〇〇

私 たちを取り巻く働き方や暮らし方が大きく変わったこの3年、労働組合に求められる活動も、これまでの「賃金や雇用の安定」にフォーカスした組合活動だけでなく、「組合員一人一人のライフキャリア支援」まで領域が広がっています。

j.union フォーラム2022は、組合活動の問い直し・立て直しの必要性が叫ばれる中、労働組合の最大の強みである「つながり」に着目し、「つどい・つながり・つくろうミライ」をテーマに2022年12月9日（金）に開催されました。

今回は、東京・大阪・オンラインの各会場から全国の組合役員同士がつながり合い、さらに魅力のある労働組合に変化していくために、労働組合の可能性を最大化する場となりました。

本号では、j.union フォーラム2022での示唆や意見をご紹介します。今後の組合の可能性をみなさんと一緒に考えていきたいと思います。

j.union フォーラム2022のプログラム紹介

第1セッション つながる意味・価値を考える…………… p3

└ **労働組合の理念**に立ち返る ～つながりをつくることの意味～

第2セッション 関わり合う…………… p4

└ **労働組合には可能性が溢れている！** ～つながることのできること～

第3セッション つながる活動の視野を広げる…………… p5

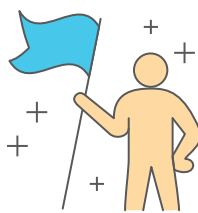
└ **社会の多様なつながりの活動**を知ろう！

第4セッション つながって、行動する…………… p6-7

└ **明るいミライのために私たち労働組合に何ができるか？**

労働組合の理念に立ち返る ～つながりをつくることの意味～

これまで労働組合が向き合ってきた「働く」や「つながり」。このセッションでは、アル・ゴア元米国副大統領（ノーベル平和賞受賞）の『不都合な真実』の翻訳者でも知られている枝廣淳子氏をお迎えして、「人と人がサステナブルに働くことや、つながることの意味」について、考えました。今回は、講演内容の一部をご紹介します。



枝廣 淳子 氏

大学院大学至善館教授
株式会社未来創造部代表取締役
幸世経済社会研究所所長

■ “生活世界” と “システム世界”

労働組合の大きなキーワードが「つながり」です。私自身のライフテーマもつながりなので、その辺の話をさせていただきます。これまでに多くの方々のカウンセリングをしてきて強く実感したのは、「人は大事なもののつながりが切れたときに大変な状況に陥る」ということです。環境問題に関する活動を始めたときも「人は地球とのつながりが切れたときに環境問題を起こす」ということを感じました。社会の問題も同じです。

そこで、同じ大学で教鞭をとっている宮台真司氏と野田智義氏による共著『経営リーダーのための社会システム論』から大事だと思うことをお伝えします。それは、“生活世界”と“システム世界”という二つの世界があるということです。生活世界とは、地元の商店街的なイメージで顔や名前が分かっているもの。もう一つはコンビニエンスストア的な、互いの顔が分からず個性をあまり持たない交換可能なシステム世界。今、システム世界は拡大してきています。

労働組合というのは生活世界に近い存在で、人間関係がベースにあり、お互いに顔が見えます。しかし、システム世界が強くなっている企業も多いのではないのでしょうか。システム世界は流動性が高く、自分が入れ替え可能な存在になってしまう——これが一番の問題です。人は自分が代替可能だと思いつきに、自分の存在が棄損され、非常に辛いと感じます。今、企業で辞めたりメンタルの問題を抱えていたりする人が多くなっているのも、このような事象が関係しているのだと思います。

労働組合は、生活世界とシステム世界をつなぎ、生活世界的な人間性をキープできる場として存在している。私はこれがとても大事だと思っています。



■ VUCA 時代に重要となる 「レジリエンス」

不確実で複雑で、先を見通しにくい状況を表す“VUCA”と呼ばれる時代に私たちは生きています。こうした状況に立ち向かうキーワードが「レジリエンス」です。レジリエンスというのは、一般的に回復力や再起力、弾力性というように訳されますが、私は「しなやかに立ち直る力」という言葉に訳しています。

VUCAの時代において、個人にとっても、企業という組織にとっても、労働組合にとっても、レジリエンスは本当に大事になってくるでしょう。いつ何が起こるか分からない世界の中で、どんなことが起こっても立ち直る力を身につけておかなければなりません。

分かりやすいのが竹や柳のような“しなやかさ”です。大変なことを受けてしので立ち直るという強さを持つことが必要ですし、労働組合がそれを育めるような存在になり、一人一人を支えてほしいと思います。

■ レジリエンスにおける三つのポイント

レジリエンスの専門家や研究者が挙げている共通項が三つあります。

一つ目が「多様性」です。会社だけではなく家庭・地域での役割を持っていれば大変な事態になってもしのぐことができるでしょう。二つ目が「モジュール性」です。これは普段は全体とつながっているけれど、いざというときには、スタンドアロンでモジュールのように機能すること。三つ目は、「緊密なフィードバック」。何か大変なことが起きそうなときに、いち早くそれを察知できますか？ 察知するだけでなく、正しく意思決定者に伝わっているか？ ということです。

この三つのレジリエンスを育むことを会社組織ができないとしたら、労働組合がその役割を担う。もしくはバランスを取って、三つのレジリエンスを大事にするような存在であることが重要です。

■ 労働組合は、幸福を高める プラットフォームに

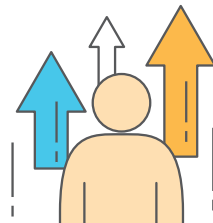
日本人は、安心感や親しみが幸福につながりやすい気質を持っています。ですので、生活世界を大事にする労働組合であれば、日本的な幸福を支えることができると思っています。

労働組合は企業経営に対峙するというイメージも根強いですが、そうではなく、職場を通じて幸福を感じられる、幸福を高められるプラットフォームであるべきでしょう。それが今、労働組合に求められている社会からの要請であり、新たな定義もしくは役割となりうると考えています。



労働組合には可能性が溢れている！ ～つながることのできる～

同じ志を持った組合同士がつどい、つながりながら、一つの組織だけでは解決できなかった課題に取り組み、ミライの活動をつくらうとしているコミュニティ活動が始動しています。第2セッションではエスアールエルユニオンの大澤彰氏より、その取り組みの内容、その背景や思いをご紹介します。



大澤 彰 氏

エスアールエルユニオン
執行委員長

■ ReUnionコミュニティ

現在、私たちは4つの「共」（「共同・共助・共働・共創」）を志す「ReUnionコミュニティ」づくりを始めています。それは、組合役員が抱えがちな自労組だけだとなかなか実現できないことや、解決できない悩みや課題などを互いに持ち寄って（共同）、その解決の方法について互いに知恵を出し合い（共助）、助け合いながら実行し（共働）、さまざまな活動と一緒に作りだしていく（共創）コミュニティです。

「ReUnionコミュニティ」のイメージを一言で例えるならば、「Village（＝村）」です。それは、参加する組合役員・組合員が組織の枠組みを超えているいろいろな相談ができる場であり、お互いの持つ情報や知識を持ち寄ってお互いに教え学び合う場でもあります。そこでは共通の趣味を語り合い、憩いの時間を共有したり、いろんな人を招待してお祭りなどの大勢で楽しめるイベントが行われたりすることもあります。そんな、一つの「Village」のような「ReUnionコミュニティ」は、さまざまな人が温かな助け合いのために集まる労働組合発のサードプレイスを目指しています。

私個人の思いとなりますが、私が子どもの頃は、家の鍵を忘れて家に入れないとき、隣家の人が両親が帰るまで面倒を見てくれるような温かなふれあいがありました。しかし、今はさまざまな事情でそういったつながりやふれあいが薄れてきてしまっていると感じます。一方、労働組合は「お互い様の助け合い」を実践する人たちの集まりとして依然として活動を続けています。この労働組合の温かなつながりやふれあいの輪を、「ReUnionコミュニティ」の活動を通じてさらに広げ、働く人々の文化として再現できたらいいな、と思っています。

そんな、「ReUnionコミュニティ」の活動は「つなぐ・はぐくむ・つむぐ」の三つのキーワードに集約されると考えています。

一つ目の「つなぐ」活動は、さまざまな知識や視点の組合／役員／組合員をつなげる、自労組だけでは解決しにくい悩み・

課題をつなげる、役員育成や組合イベントの場を共同企画としてつなげる、といった活動です。二つ目の「はぐくむ」活動は、つながった組合／役員／組合員同士で知識やアイデアをはぐくみ合い、その中で新たな知見や視野を得て組合役員／組合員と

して互いに成長し合う。自労組だけでは実現の難しい取り組みを共助・協働で行う中で活動負担を軽減しつつ活動の幅を広げて組織として成長していく活動になります。最後の、「つむぐ」活動は、互いがつながり、はぐくみ合った結果として生まれます。例えば、互いの関係が強固になるほど、さまざまな活動がつむがれることとなる。そうした新たな取り組みによってコミュニティが拡大していく。組合にできることが増えていく。そうして変化していくコミュニティを次世代の役員がつむいでいくことで持続的なコミュニティを目指す（共創）活動です。

かのチャップリンは「私たちは皆、互いに助け合いたいと思っている。人間とはそういうものだ。相手の不幸ではなく、お互いの幸福によって生きたいのだ」と言いました。自己中心的利他。つまり誰かのために動くことで結果的に自分自身が満たされる、それこそまさに「ReUnionコミュニティ」が目指す姿、なにより労働組合のあるべき姿を表していると感じています。私はこの「ReUnionコミュニティ」や、それに連なる「職場コミュニティデザイン研究会」を通して、さまざまな人に会わせていただき、つながりが生み出す新たな発見、成長、楽しさを肌で実感することができました。この充実感を、「ReUnionコミュニティ」を介して多くの方と共有したいです。「ReUnionコミュニティ」という場合は、まだ動き始めたばかり。皆さま、コミュニティを通じ、ぜひつながっていただけませんか？ そして「Village＝村」おこしと一緒に楽しみませんか？ 多くの方のご参加を心からお待ち申し上げております。



具体的にスタートしているコミュニティ活動の紹介は **P7** にて

社会の多様なつながりの活動を知ろう！

第3セッションでは、つながることで社会課題を解決している3人のプレゼンターをお呼びして、多様なつながり活動を発表いただきました。

組織や会社の枠を超えた「つながり」づくりはすでに始まっています。多様な事例をヒントに、労働組合はこれからどんなミライをつくることができるのか。その可能性を探りました。



古田 佳苗 氏

タイガーモブ株式会社
Co-Founder
海外インターンシップ統括

海外インターンシップ支援を通じたつながりづくり ▶▶▶

タイガーモブ株式会社で、海外インターンシップ事業の責任者をしています。私の人生のターニングポイントは、大学在学中にインドで開催された海外インターンシップに参加したことです。そこで出会った仲間やインドの方々比べて、自分自身の実力不足を痛感しました。そうした経験を通じ、世界とつながることで人が新たな可能性に挑戦することを支援したいという思いから現在の事業を運営しています。

実際に海外インターン事業で生み出したつながりから、若者が海外で起業するといったさまざまな価値の創出に貢献してきました。私自身これからは、「似たような志を持つ方々をつなぐことで、世界規模で人の心を着火し、つながりを生み出していくこと」に挑戦していきたいです。コロナ禍でなかなか海外に行けなかったのも、その分世界を飛び回りながらつながりを生み出し、事業、そして、私自身の人生にも還元できるようにしていきたいと思います。

社会のバリアの解消を通じたつながりづくり ▶▶▶

知的障がいのある兄がいたことから、小さい頃から「障がい」というものに疑問を持ち始めました。大学時代からその問いに対する活動をし、ユニバーサルデザインのコンサルティングを行う株式会社ミライロに新卒で入社しました。同社での経験を通して「障がいは人ではなく環境にある」という考え方を学びました。その後、転職サービス事業などを手がける株式会社 LiB に入社しました。それから、障がいのある兄弟姉妹を持つ子どもに向けた「うえるしぶ」という活動を立ち上げたり、米国で女性リーダー向けの研修を受講したりといったことにも挑戦しています。

私の経験から「個人」として大事だと思っているのは「自分よがりではなく、会社にもメリットになるように考え、信頼残高を貯めながらチャンスを生かす」という視点です。一方、「企業」としては「社員のパフォーマンスを高めるためにベストな環境をつくる」という視点が大事だと思っています。



岡田 麻未 氏

株式会社 LiB 広報
任意団体うえるしぶ 代表



上野 聡太 氏

株式会社ヒューマンアルパ
代表取締役

依存症支援を通じたつながりづくり ▶▶▶

無料で学習機会を提供する NPO 活動、東日本大震災の復興支援活動などを経て、依存症からの回復をサポートする株式会社ヒューマンアルパを創業しました。アルコール、ギャンブル、薬物などの依存症の方はみなさんの想像よりも多くいらっしゃいます。日々、依存症の方の支援に向き合っていますが、彼らに足りないものは「人や社会との接続」です。みなさんも何か無理のない範囲で彼らとつながりを持っていただくと、より優しい社会になるのではないかと思います。

一方、私はセブンリッチグループという会社にも在籍して新規事業支援を手がけており、いろんな方と出会う機会があります。その中で感じているのが、つながりは私の仕事をつくり続けてくれるものであるということです。そしてその仕事がいかに新しいつながりを導いてくれます。私は、このつながりを大事にしながら、これからも仕事をし、社会と絆を維持することができたらと思っています。

明るいミライのために 私たち労働組合に何ができるか？



第4セッションでは、私たちが「つながるからこそできること」を具体的に考えるため、4つの関心軸ごとにグループに分かれディスカッションを行いました。フォーラム全体のプログラムを通じて見えてきた時代の変化や問題に合わせたさまざまな「つながり方」、そして個人として求められる「つながり方」などに思いをめぐらしながら、どんなミライを私たちは描くことができ、その実現のためにどんなつながりや行動が必要なのか、みなさんと一緒に考えました。アイデアの一部を紹介します。

労組 × 労組

Q1

労組と労組がつながることのできそうなこと・やってみたいこと・生み出せそうなこと

異業種交流会

成功事例共有会

機関誌交換

役員ミーティング

他労組の取り組みの視察

職場見学会

共同レクリエーション
(キャンプ・BBQ・清掃活動)

Q2

そのアイデアが実現したら
どんなミライになりそうですか？

▶ 労組同士がパートナーシップを結び、新たな取り組みを実施することで、組織の成長・労働条件が向上したミライ

Q1

組合役員同士がつながることのできそうなこと・やってみたいこと・生み出せそうなこと

執行部視点の
悩み相談

議案合宿

役員同士の合宿 in
熱海 (委員長 NG)

家族込みの
役員イベント

役員交流会

1 on 1

うまいもの
情報共有

三役からの
魅力発表会

役員向け研修の
受講

異業種交流会参加後の
フィードバック

Q2

そのアイデアが実現したら
どんなミライになりそうですか？

▶ 組合役員育てます！
目指すミライは人材を育て輩出するユニオン！

役員 × 役員



アイデアを出し合う参加者のみなさん

労組 × 社会

Q1

労組と社会がつながることのできそうなこと・やってみたいこと・生み出せそうなこと

定年後の
就職支援

複数労組による
社会課題について
の対話会

災害
ボランティア活動

対話のやり方を
学生に教える

シニア世代の
仕事をつくる
(マッチング)

学び直しの場
の設定

組合内副業の実施

地域(地元)の
町おこし

海岸掃除

盲導犬支援活動

組合がない
中小企業との
つながり創出

Q2

そのアイデアが実現したら
どんなミライになりそうですか?

組合だからこそできる社会課題への貢献。
社会の分断を組合がつなぐミライ

Q1

組合員同士がつながることのできそうなこと・
やってみたいこと・生み出せそうなこと

組合員 × 組合員

お互いの仕事紹介

共同レクリエーション

特技
紹介

組合内
コイン

対話
集会

若年層研修
(異業種合同)

組合員が幸せを満喫
している写真の展開

趣味の集まり

キャリア相談

上司部下だけでは
ない人をつなげる
仕組みづくり

Q2

そのアイデアが実現したら
どんなミライになりそうですか?

組合員一人一人がこうしたいという思いを持つ、
自律したカッコいい組織になるミライ



東京・大阪・オンラインの同時開催を盛り上げていただいたみなさまありがとうございました。

コミュニティ活動は既に始まっています!

笑顔があふれる職場をつくりたい

職場コミュニティデザイン研究会



組合版 SDGs「職場や会社の仲間を誰一人取り残さないこと」「職場全員に安全で安心な居場所があり、一人一人に尊重された出番のある環境をつくること」を目的としたコミュニティ活動です。
組合の役職にとらわれず、一組合員でも「職場のメンバーとつながっていく」という思いを持った人が取り組める、本質的な職場コミュニティづくりをめざしています。

つながることで、さまざまなアイデアを具現化するコミュニティ活動がすでにスタートしています。
下記QRコードからご興味のある活動にどうぞ参加ください。



多様化する組合員の価値観に
対応できる組織づくりを目指す

j.union Lab



j.union Lab は組合員・組合役員を対象とした共同調査(Link survey)を軸に、多様化したいまの自組織の状態や異業種を含めた他労組との差異を把握することで活動を見直し、参画する仲間と共に活動アイデアを共有しながら「組合員の幸せの実現」に向けて進む有志会員の活動です。

ReUnion VILLAGE フェスティバル開催!

さまざまな組織の組合役員の対話から生まれた、組合のミライを考える新しい取り組みが始まります。みんなであつなり、アイデアをはぐくみ、活動をつむいでいきませんか? 気軽にご参加お待ちしております!

4月19日(水)
オンライン開催





労働界への提言



み

なさまのおかげでj.union フォーラムも3度目の開催を無事に終えることができました。

2020年に始まったj.union フォーラムは、コロナ禍で止まってしまった活動をもう一度再スタートさせていこうという考えから、「組合活動のアップデート」というテーマで始まりました。そして2年目では「組合活動の創造と想像」というテーマで、組合活動の領域を広げていくための議論が活発に行われました。そして3年目の今回は、労働組合の最大の強みである「つながり」にフォーカスし「つどい・つながり・つくろうミライ」というテーマで実施しました。

労働組合は、人や組織の「つながり」によって活動していく組織です。職場間の横串のコミュニケーション機能を持ち、普段なかなか話せない他部門のメンバーや職制との関わりによって人脈をつなげていき、視野が広がる人間的な成長ができる場所です。しかし、単組だけではどうしても解決できないこともあります。それは業種を超えた組合と組合のつながりによって解決やミライの創造ができると考えています。

枝廣淳子氏はj.union フォーラムの講演の中で、「『つながり』は放っておいてできるものではないため、つなげる役割の部門を設置することや、制度化することが大事」といいます。成果を求める企業では、コスト面や短期的な成果を示しづらいという理由から、簡単なことではないでしょう。枝廣氏からは、短期的な成果を過度に求めた結果、組織や社会の中で合理化・効率化が優先され、人と組織に犠牲が起きてしまう現代社会特有の課題に対して「労働組合こそが人と人、人と組織、人と社会の繋ぎ手を担うことができ、持続可能な組織や社会づくりに寄与することができる」と、本質的な示唆をいただきました。

今回のj.union フォーラムで、その手段として「リレーション・メンバーシップ」という構想を発表さ



「つながり」でミライを創造します



小野 晋

j. union 株式会社
代表取締役会長

せていただきました。「リレーション・メンバーシップ」とは、共通のプラットフォームを土台として、組合同士が共同体（コミュニティ）としてつながり、共同サービスやツールによって活動の知恵や、ノウハウ、価値観などさまざまなものが交換・共有されることで、人と組織と社会を良くしようという考え方を指す造語です。現在、この「リレーション・メンバーシップ」のもとに人と人が集い、つながっていくための仕組みを開発しています。そして、つながりを持つ場として組合役員同士のコミュニティの場を立ち上げ、実際につながる場の創造に力を入れていきたいと考えています。

この開発中のしくみが完成され、組合同士のコミュニティによって、組合役員や組合員が集い、つながり、知恵やノウハウの交換が行われることが可能になれば、今まで単組だけでは難しかった活動が可能になったり、新たなアイデアが生み出されたりします。それが職場や組織、その先にある社会問題の解決につながっていくと確信しています。多くの組合役員のみなさまとともに、これから「つながり」をさらに強めていきたいと思っています。ぜひ一緒にミライをつくりましょう。

